

化学物質等安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 : ネオ消アル「ニッコー」
 会社名 : 日興製薬株式会社
 住所 : 岐阜県羽島市上中町一色 467 番 1
 担当部門 : 品質管理部
 電話番号 : (058) 398-2576
 FAX 番号 : (058) 398-5863

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

火薬類	分類対象外
可燃性／引火性ガス	分類対象外
可燃性／引火性エアゾール	分類対象外
支燃性／酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	区分 2
可燃性固体	分類対象外
自己反応性化学品	区分外
自然発火性液体	区分外
自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品	区分外
水反応可燃性化学品	分類対象外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類対象外
有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない

健康に対する危険性

急性毒性（経口）	区分外
急性毒性（経皮）	区分外
急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気）	区分外（※区分 5 とする確かな根拠が得られない）
急性毒性（吸入：粉じん）	分類対象外
急性毒性（吸入：ミスト）	分類できない
皮膚腐食性／刺激性	区分外
目に対する重篤な損傷／目刺激性	区分 2
呼吸器感作性	区分外
皮膚感作性	区分外
生殖細胞変異原性	区分 1
発がん性	区分外
生殖毒性	区分 1
特定標的臓器／全身毒性（単回曝露）	区分 1 中枢神経系、視覚器、全身毒性 区分 3 気道刺激性、麻酔作用
特定標的臓器／全身毒性（反復曝露）	区分 1 肝臓、中枢神経系、視覚器、血液系 区分 2 神経系、呼吸器、脾臓

吸引性呼吸器有害性
環境に対する危険性
水生環境急性有害性
水生環境慢性有害性
シンボル

区分外

区分外

区分外



3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別
標準組成

混合物

エタノール 36w/v%
イソプロパノール 20w/v%
メタノール 1w/v%
水 31w/v%
青色2号 微量

エタノール 100%としての情報

化学名

化学式又は構造式

官報公示整理番号

化審法
安衛法

エタノール Ethanol

C₂H₅OH

(2)-202

既存

64-17-5

CAS No.

PRTR 法

危険有害成分

非該当

- ・労働安全衛生法
通知対象物 政令番号 61
危険物・引火性の物
- ・消防法
危険物第4類引火性液体 アルコール類 水溶性

イソプロパノール100%としての情報

化学名

化学式又は構造式

官報公示整理番号

化審法
安衛法

イソプロパノール Isopropanol

C₃H₈O

(2)-207

2-(8)-319

CAS No.

PRTR 法

危険有害成分

非該当

- ・労働安全衛生法
通知対象物 政令番号 494
表示対象物 政令番号 2-3
危険物・引火性の物
有機溶剤中毒予防規則 第2種有機溶剤
作業環境測定基準、作業環境評価基準
- ・消防法
危険物第2類引火性液体 アルコール類 水溶性

メタノール100%としての情報

化学名

化学式又は構造式

官報公示整理番号

化審法
安衛法

メタノール Methanol

CH₄O

(2)-201

既存

67-56-1

CAS No.

PRTR 法

非該当

危険有害成分

- ・労働安全衛生法
通知対象物 政令番号 560
表示対象物 政令番号 36
危険物・引火性の物
有機溶剤中毒予防規則 第2種有機溶剤
作業環境測定基準、作業環境評価基準
- ・毒物劇物取締法
劇物「メタノール」
- ・消防法
危険物第4類引火性液体 アルコール類 水溶性

4. 応急措置

吸入した場合

- ・被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、安静にすること。
- ・気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

- ・製品の浸潤した衣類を直ちに脱がせること／取り除くこと。
- ・水で流しながら洗浄すること。石鹸を使ってよく落とすこと。
- ・気分が悪い時は、医師の診断を受けること。

目に入った場合

- ・豊富な清浄水で最低 15 分間注意深く洗浄すること。
- ・コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、更に数分間洗浄すること。

飲み込んだ場合

- ・直ちに医師の手当を受けること。
- ・水でよく口の中を洗浄すること。
- ・コップ数杯の水を飲ませ、可能であれば吐き出させること。ただし、意識がない場合は、口から何も与えてはならない。また吐かせようとしてはならない。
- ・気分が悪いときは、医師の診断を受けること。意識がないときは直ちに医師の手当を受けること。

5. 火災時の措置

消火剤

使ってはならない消火剤
火災時の特定の消火方法

水、粉末、泡（耐アルコール泡）、炭酸ガス
棒状注水

- ・初期の火災には、散水、噴霧水又は粉末消、炭酸ガス等の消火器による消火を行う。大規模火災には、泡（耐アルコール泡）消火剤を用いて空気を遮断する。
- ・散水によって逆に火災が広がるおそれがある場合には、上記に示す消火剤のうち、散水以外の適切な消火剤を利用すること。
- ・危険でなければ火災区域から容器を移動する。容器の移動が不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
- ・消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
- ・消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

消火を行う者の保護

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置、封じ込め及び浄化の方法・機材、二次災害の防止策

- ・関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・状況に応じて保護具（呼吸用保護具、化学防護服、手袋、長靴、眼鏡、マスク等）を着用し、当該物の吸入や直接接触を避ける。少量の場合には、こぼれた場所を速やかに大量の水で洗い流す。大量の場合には、漏出液を密閉式の空容器に出来るだけ回収し、回収できなかった場所を大量の水で洗い流す。
- ・浸透性および揮発性があるので、付近の着火源となるものは速やかに取り除く。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- ・ 「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気・全体排気

- ・ 「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、換気に注意する。

注意事項

- ・ 取り扱う設備のある場所を常に整理整頓する。
- ・ みだりに火気その他点火源となる恐れのあるものに接近させ、若しくは注ぎ、蒸発させ、又は加熱しないこと。
- ・ 取扱い及び保管施設の電気設備は全て防爆構造とし、製品の流動その他によって静電気を発生させる恐れのある場所にはこれを有効に除去する装置を設けること。
- ・ 取り扱う設備のある場所に可燃性のもの又は酸化性のものを置かないこと。
- ・ 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。

保管

適切な保管条件

- ・ 保管は消防法上の貯蔵設備で行うこと。
- ・ 風通しをよくし蒸気が滞留しないようにすること。
- ・ 火気その他危険な場所から遠ざけ風通しをよくし、温度、湿度、遮光に注意し、冷暗所に保管すること。
- ・ 消防法の第1類及び第6類の危険物との混合貯蔵は禁止。
- ・ 非危険物との混合貯蔵については、原則禁止であるが、例外として危険物以外の可燃性固体類又は可燃性液体類とを貯蔵する場合は、それぞれをとりまとめて貯蔵し、かつ相互に1m以上の間隔を置く場合に限り貯蔵することが出来る。

安全な容器包装材料

- ・ 消防法及び国連輸送包機（危険物輸送に関する勧告）で規定されている容器を使用すること。

混触危険物質

- ・ 「10. 安定性及び反応性」を参照。

8. 暴露防止措置及び保護措置

混合物としての情報

- ・ 適切な保護具（不浸透性の防護手袋、防護靴）を着用すること。
- ・ 保護具はゴム製もしくは帯電防止機能のあるものを着用すること。
- ・ 適切な眼の保護具（普通眼鏡型、測板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）及び顔面用の保護具を着用すること。
- ・ 適切な呼吸器保護具を着用すること。
- ・ 高濃度の蒸気が発生する場所では、呼吸器保護具（送気マスク、空気呼吸器など）、眼の保護具（ゴーグル型）を着用すること。

エタノール 100%としての情報

CAS No 64-17-5
管理濃度 1000ppm
許容濃度 ACGIH(1996) TWA 1,000ppm(1,880mg/cm³)

イソプロパノール 100%としての情報

CAS No 67-63-0
管理濃度 200ppm
許容濃度 最大許容濃度 400ppm 980mg/m³ 日本産業衛生学（2014年版）
TLV-TWA 200ppm A4 TLV-STEL 400ppm A4 ACGIH(2013年版)

メタノール 100%としての情報

ネオ消アル「ニッコー」

CAS No	67-56-1
管理濃度	200ppm
許容濃度	最大許容濃度 200ppm 260mg/m ³ 皮 日本産業衛生学(2005年版) TLV-TWA 200ppm skin;BEI TLV-STEL 250ppm skin;BEI ACGIH(2005年版)

9. 物理的及び化学的性質

混合物としての情報

形状	淡青色澄明の液で特異なにおいがある。
色	淡青色澄明
臭い	特異なにおい
密度	比重 0.883 (15°C)

エタノール 100%としての情報

CAS No	64-17-5
性状	無色透明液体
におい	特有の芳香
pH	該当せず
融点・凝固点	-114.5°C (融点)
沸点または初留点	78.32°C (101.325kPa)
引火点	13°C (密閉式)
爆発範囲	下限 3.3vol%~上限 19.0vol% (空气中)
蒸気圧	5.878kPa (20°C)
蒸気密度	1.59
比重(密度)	0.78493g/cm ³ (25°C)
溶解度	水、エーテルによく溶ける
O/W	logPow=-0.30
自然発火温度	439°C
分解温度	データなし
蒸発速度	データなし
粘度	1.0826mPa・s (25°C) (粘性率)

イソプロパノール 100%としての情報

CAS No	67-56-1
性状	液体(室温)
におい	芳香臭(アルコール臭)
pH	中性(水に溶けてもpHに影響しない)
融点・凝固点	-89.5°C
沸点または初留点	82.4°C (沸点)
引火点	11.7°C (密閉式)
爆発範囲	2.0~12.7vol%
蒸気圧	4.44kPa (20°C)
蒸気密度	2.1 (空気=1)
比重(密度)	0.785 (20°C/4°C)
溶解度	水、有機溶剤と任意割合で混合
O/W	logPow=0.05
自然発火温度	456°C
分解温度	データなし
蒸発速度	データなし
粘度	データなし

メタノール 100%としての情報

CAS No	67-56-1
--------	---------

ネオ消アル「ニッコー」

性状	無色液体
におい	特徴的な臭気
pH	データなし
融点・凝固点	-98°C (融点)
沸点または初留点	65°C (沸点)
引火点	12°C (密閉式)
爆発範囲	下限 5.5vol%、上限 44vol%
蒸気圧	12.3kPa (20°C)
蒸気密度	2.1
比重 (密度)	0.7915 (20°C/4°C)
溶解度	可溶 (水)、エタノール、エーテル、ベンゼンに可溶
0/W	logPow=-0.82/-0.66
自然発火温度	464°C
分解温度	データなし
蒸発速度	データなし
粘度	0.61mPa・s (20°C)

10. 安定性及び反応性

混合物としての情報

安定性 通常の条件においては、安定である。

エタノール 100%としての情報

CAS No 64-17-5

安定性 通常取り扱い条件においては安定であり、危険有害な分解生成物は発生しない。

危険有害反応可能性 硝酸、硝酸銀、硝酸水銀、過塩素酸マグネシウムなどの強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。
ある種のプラスチック、ゴム、被膜剤を侵す。

避けるべき条件 高温への暴露

混触危険物質 強酸化剤、次亜塩素酸カルシウム、アンモニア

危険有害な分解生成物 一酸化炭素

イソプロパノール 100%としての情報

CAS No 67-56-1

安定性 通常条件においては、安定である。

蒸気は引火して爆発する恐れがある。

危険有害反応可能性 引火点<23°C、沸点(初留点)>35°C、UNRTDG クラス 3 PG II に分類されているので、引火性液体として区分 2 とした。
強酸化剤と反応し、火災や爆発の危険性をもたらす。

避けるべき条件 高温

混触危険物質 強酸化剤

危険有害な分解生成物 不完全燃焼させた時、一酸化炭素を生成する。

メタノール 100%としての情報

CAS No 67-56-1

安定性 通常条件においては、安定である。

危険有害反応可能性 酸化剤と激しく反応し、火災、爆発の危険をもたらす。

過酸化水素と混触したものは、衝撃により爆発する。

避けるべき条件 加熱

混触危険物質 酸化剤、過酸化水素

危険有害な分解生成物 加熱分解により一酸化炭素、ホルムアルデヒドを生じる。

11. 有害性情報

混合物としての情報

エタノール 100%としての情報

急性毒性

皮膚腐食性・刺激性

目に対する重篤な損傷・刺激性

呼吸器感作性

皮膚感作性

生殖細胞変異原性

発がん性

生殖毒性

特定標的臓器・全身毒性
(単回曝露)

特定標的臓器・全身毒性
(反復曝露)

吸引性呼吸器有害性
略記の説明

データなし

経口 ヒト LDLO 1,400mg/kg 行動、胃腸(吐気)

経口 ラット LD50 7,060mg/kg 呼吸器系

経口 ヒト(男) TDLO 700mg/kg 行動(精神生理学上)

吸入 ラット LC50 20,000ppm/10h 毒性未評価

皮膚 ラビット 400mg 開放 症状(軽度)

皮膚 ラビット 500mg/24h 症状(重度)

OECD TG405 及び Draize test に従った試験により「moderate」と分類されている。

ヒトで角膜上皮の傷害、結膜充血は1、2日間で回復する。

ラビット 100mg/24h 症状(中度)

データなし

動物試験で有意の皮膚感作性は見られない。

ラット及びマウスにおける優勢致死の報告及びマウス生殖細胞における異数性誘発報告がある。

I ARC では「アルコール性飲料としてヒトに発がん性がある」としてグループ1に分類しているが、これはアルコール性飲料を習慣的に摂取するヒトの多数の疫学調査に基づき、アルコール性飲料と食道系及び肝臓のがんの因果関係を認めたものである。他方、ACGIHは、主として作業環境での有害性因子としてエタノールをA4(ヒト発がん性に分類できない物質)に分類している。

経口 マウス TDLO 320mg/kg/50週 毒性未評価

アルコールの習慣的な大量摂取によりヒト胎児に対する奇形その他の悪影響が多数報告されている。

吸入 ラット TCL0 20,000ppm/7h, 妊娠, 1~22日 発育異常

経口 ラット TDLO 44g/kg, 妊娠, 7~17日 発育異常

ヒトでエタノールの経口摂取により中枢神経系に影響を与え、頭痛、疲労、集中力を低下させ、急性中毒の場合は死に至ることがある。

ヒトで5,000ppm(9.4mg/L)の吸入により気道刺激性、昏迷、病的睡眠を起こす。

ヒトでアルコールの長期大量摂取によりほとんど全ての器官に障害を起こすが、最も悪影響を与える標的臓器は肝臓である。障害は脂肪変性に始まり、壊死と繊維化を経て肝硬変に至る。

アルコール中毒患者の禁断症状(振戦症状、てんかん、精神錯乱)

データなし

TCL0; Toxic Concentration Low. 報告されている毒性の最低の濃度

TDLO; Toxic Dose Low. 報告されている毒性を示す最低の量

LC50; Lethal Concentration Fifty. 一定時間で対象集団の50%が死亡すると推定される濃度

LDLO; Lethal Dose Low. 報告された最低の致死量

LD50; Lethal Dose Fifty. 被検集団の50%が死亡すると推定される投与量

イソプロパノール 100%としての情報

急性毒性

経口 ラットLD₅₀ = 5280 mg/kg (EHC(1990)、SIDS(1997))、5500 mg/kg ((EHC(1990)、SIDS(1997)、CERIハザードデータ集(1999))、5480 mg/kg (EHC(1990)、PATTY(1994))、[トクソー IPA工業用] [(株)トクヤマ] [BS-01] [2015年4月1日] [6 /9] 4710 mg/kg (EHC(1990)、PATTY(1994)、SIDS(1997))、1870 mg/kg (CERIハザードデータ集(1999)) があり、それら の統計計算で求めた毒性値は3437 mg/kgとなることから、区分外とした。

経皮 ウサギLD₅₀ = 12870 mg/kg (EHC(1990)、PATTY(1994)、SIDS(1997)、CERIハザードデータ集(1999)) および 4059 mg/kg (CERIハザードデータ集(1999)) があり、これら の低い方の値から、区分外とした。

吸入 (蒸気) ラットLC₅₀ (4時間蒸気ばく露) = 72600 mg/m₃ (29512 ppm), EHC(1990)、PATTY(1994)、SIDS(1997) および 29620 ppm (72865 mg/m₃) (CERIハザードデータ集(1999)) に基づき、いずれもミストを含まない蒸気でのばく露における ppm濃度基準値の区分4の範囲を超えていることから、区分外とした。

皮膚腐食性・刺激性

EHC 103 (1990)、PATTY (4th, 1994)、ECETOC TR66 (1995)、CERI ハザードデータ集(1999)のウサギ皮膚刺激性試験では、刺激性なしまたは軽度の刺激性の報告があるが、EHC 103 (1990)のヒトでのボランティアおよびアルコール中毒患者の治療のため皮膚適用した試験では刺激性を示さないとの報告から、区分外とした。

目に対する重篤な損傷・刺激性

EHC(1990)、SIDS(2002)、PATTY(6th, 2012)、ECETOC TR48(1998)のウサギでの眼刺激性試験では、軽度から重度の刺激性の報告があるとの記述があるが、重篤な損傷性は記載されていないことから、区分2とした。

呼吸器感作性

データなし。

皮膚感作性

皮膚：SIDS(1997)のモルモットでのビューラー法による皮膚感作性試験では陰性であった。一方、EHC(1990)の皮膚炎発症例でIPAのパッチテスト陽性例には、低分子の1級または2級アルコール、プロピレンオキサイドにも陽性を示しており、IPAが原因物質か否か明確でないことから、データ不足により分類できないとした。

生殖細胞変異原性

SIDS(1997)のin vivoでのマウス骨髄細胞を用いた小核試験で陰性であることから区分外とした。

発がん性

IARC(Access on Oct 2005)でグループ3、ACGIH(2003)でA4に分類されていることから、区分外とした。

生殖毒性

EHC(1990)、IARC(2005)、PATTY(1994)のラットでの飲水投与による2世代繁殖試験では、繁殖能および出生仔の発育に影響なかった。一方、EHC(1990)、SIDS(1997)、ACGIH(2003)のラットでの発育毒性・催奇形性試験では、催奇形性はなかったが、親動物に体重増加の低下、麻酔作用等の毒性を示した用量で、妊娠率の低下、吸収胚の増加、胎児死亡の増加等の生殖毒性が認められたとの記述から、区分2とした。

ネオ消アル「ニッコー」

特定標的臓器・全身毒性
(単回曝露)

SIDS (2002)、EHC 103 (1990)、環境省リスク評価第6巻 (2005) の

記述から、本物質はヒトで急性中毒として中枢神経抑制 (嗜眠、昏睡、呼吸抑制など)、消化管への刺激性 (吐き気、嘔吐)、血圧、体温低下、不整脈など循環器系への影響を含み、全身的に有害影響を生じる。また、吸入ばく露により鼻、喉への刺激性 (咳、咽頭痛) を [トクソー I P A 工業用] [(株) トクヤマ] [BS-01] [2015年4月1日] [7 /9] 示す (EHC 103 (1990)、環境省リスク評価第6巻 (2005)) ことから、気道刺激性を有する。以上より、区分1 (中枢神経系、全身毒性)、及び区分3 (気道刺激性) に分類した。

特定標的臓器・全身毒性
(反復曝露)

ラットに本物質の蒸気を4ヶ月間吸入ばく露試験で、100 mg/m³ (ガイダンス値換算濃度: 0.067 mg/L/6 hr) 以上で白血球数の減少が見られ、500 mg/m³ (ガイダンス値換算濃度: 0.33 mg/L/6 hr) 群では呼吸器 (肺、気管支)、肝臓、脾臓に病理学的な影響が認められた (EHC 103 (1990)) との記述から、標的臓器は血液系、呼吸器、肝臓、脾臓であると判断し、血液は区分1、呼吸器、肝臓、脾臓は区分2とした。なお、吸入又は経口経路による動物試験において、区分2のガイダンス値を上回る用量で、麻酔作用、血液系への影響がみられている (SIDS (2002)、PATTY (6th, 2012))。

吸引性呼吸器有害性

データ不足のため分類できない。旧分類のデータが確認できないことと、分類ガイダンスの変更により分類を見直した。

メタノール 100%としての情報
急性毒性

経口 ラット LD50 6,200mg/kg

経口 ラット LD50 9,100mg/kg

経口 ラット LD50 12,900mg/kg

経口 ラット LD50 13,000mg/kg

経皮 ウサギ LD50 15,800mg/kg

吸入 (蒸気) ラット LC50 > 22,500ppm/8h

皮膚腐食性・刺激性

ウサギを用いた試験で24時間ばく露後に脱脂作用により中等度の刺激性がみられたとの記述がある一方で、ウサギに20時間閉塞適用した別の試験では刺激性がみられなかったとの記述があり、4時間以内のばく露による試験データが得られなかった。

目に対する重篤な損傷・刺激性

EHC、DFGOT 及び PATTY に、ウサギを用いた試験で軽度ないし中等度の眼刺激性が認められたとの記述があるが、回復性については明らかな記述がないこと、及びヒトで角膜の障害、強度の結膜浮腫が一過性に認められている。

呼吸器感作性

データなし

皮膚感作性

ヒトの皮膚ばく露例でアレルギー性接触皮膚炎の報告があるとの複数の文献を引用した記述はあるが、具体的な症例に関する記述はない。一方、モルモットを用いた Magnusson-Kligman maximization test で感作性は認められなかったとの記述がある。

生殖細胞変異原性
発がん性

マウス赤血球を用いる小核試験で陰性の結果がある。

データなし

ネオ消アル「ニッコー」

生殖毒性	妊娠ラット及びマウスを用いた経口及び吸入ばく露試験で胎児奇形又は胎児死亡の増加が認められたとの記述があるが、信頼性のあるヒトばく露例のデータがない。雄ラットでテストステロン濃度の低下又は精巣変性がみられたとの記述があるが、これとは逆に、雄の生殖器系への影響は認められないとの記述もあり、雄の生殖能力に対する影響は明らかではない。
特定標的臓器・全身毒性 (単回曝露)	ヒトで急性経口又は吸入ばく露により中枢神経系の抑制及び視覚器障害がみられるとの記述 (EHC、ACGIH、DFGOT、PATTY及び産衛学会勧告) や、ヒトばく露例で代謝性アシドーシスがみられるとの記述 (ACGIH 及び DFGOT) から、標的臓器は中枢神経系、視覚器及び全身毒性とした。 ラット、マウス、アカゲザル等で麻酔作用が認められた。 ラット反復吸入ばく露試験で気道刺激性がみられたとの記述及びヒトで粘膜刺激症状がみられるとの記述がある。 過剰ばく露の徴候及び症状は、眠気及び意識喪失等の中枢神経系作用のことがある。
特定標的臓器・全身毒性 (反復曝露)	ヒトの長期ばく露例で中枢神経系の抑制及び視覚器障害がみられたとの記述から、標的臓器は中枢神経系及び視覚器とした。
吸引性呼吸器有害性	データなし

12. 環境影響情報

エタノール 100%としての情報

分解性	理論酸素要求量 (ThOD) : 2.10 BOD ₅ 理論酸素要求量の 44~80% COD 理論酸素要求量の 90~100% バクテリア硝化能の抑制 4, 100mg/L でニトロソモナス種のアンモニア酸化の 50%抑制
生態毒性	マスの幼魚 : LC ₅₀ 11.2g/L・24h コイの1種 : LC ₅₀ 18~13.4g/L・96h クレークチャブ : LC ₅₀ 7g/L・24h グッピー : LC ₅₀ 11g/L・7日

イソプロパノール 100%としての情報

分解性	BOD ₅ : 0.16gO ₂ /g IPA (7%) BOD ₂₀ : 1.68gO ₂ /g IPA (70%) 理論的酸素要求量: 2.4gO ₂ /g IPA 蓄積性 : ない 魚毒性 LC ₅₀ fathead minnow 11130mg/L (96h) 注) LC ₅₀ : 50%致死濃度
生態毒性	水生環境有害性 (急性) 魚類 (ヒメダカ) の96時間LC ₅₀ >100mg/L (環境省生態影響試験、1997) から、区分外とした。 水生環境有害性 (長期間) 難水溶性でなく (水溶解度=1.00×10 ⁶ mg/L (PHYSPROP Database、2005))、急性毒性が低いことから、区分外とした。

メタノール 100%としての情報

水生環境急性有害性	ブラインシュリンプ LC ₅₀ 900.73mg/L/24h
生態毒性	難水溶性でなく (水溶解度=1.00×10 ⁶ mg/L)、急性毒性が低い。

13. 廃棄上の注意

- ・ 廃棄は国、都道府県並びにその地方の法規の条例に従う。

14. 輸送上の注意

国連番号	UN1170(エタノール)、UN1219(イソプロパノール)、UN1230(メタノール)
国連分類	3
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 該当法規にしたがって貯蔵、表示、運送を行う。 (国、都道府県並びにその地方の法規の条例に従う。) ・ 輸送前に、容器の破損、腐食、漏れなどが無いことを確認する。 ・ 転倒、落下、破損が内容に積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。 ・ 「7. 取扱い及び保管上の注意」の項の記載による。

15. 適用法令

混合物としての情報

薬事法

消防法

労働安全衛生法

第4類 引火性液体、アルコール類	
名称等を表示すべき危険物及び有害物	
イソプロパノール	67-63-0 20w/v%
メタノール	67-56-1 1w/v%
名称等を通知すべき危険物及び有害物	
エタノール	64-17-5 36w/v%
メタノール	67-56-1 1w/v%
第2種有機溶剤等	

エタノール 100%としての情報

労働安全衛生法

消防法

航空法

船舶安全法

港則法

海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律

大気汚染防止法

食品衛生法

アルコール事業法

イソプロパノール 100%としての情報

労働安全衛生法

化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法）

消防法

航空法

船舶安全法

港則法

海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律

名称等を通知すべき危険物及び有害物	
危険物・引火性の物	
第4類 引火性液体、アルコール類	
引火性液体	
引火性液体類	
危険物・引火性液体類	
有害液体物質（Z類物質）	
揮発性有機化合物	
衛化第56号 別添3「一般に食品として飲食に供されている物であって添加物として使用される品目リスト」に記載	
第2条 アルコール分が90度以上のアルコール	
名称等を表示すべき危険物及び有害物	
名称等を通知すべき危険物及び有害物	
作業環境評価基準	
第2種有機溶剤等	
優先評価化学物質	
第4類 引火性液体、アルコール類	
引火性液体	
引火性液体類	
危険物・引火性液体類	
有害液体物質（Z類物質）	

ネオ消アル「ニッコー」

大気汚染防止法 メタノール 100%としての情報	揮発性有機化合物
労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物 名称等を通知すべき危険物及び有害物 危険物・引火性の物 第 2 種有機溶剤等
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法）	優先評価化学物質
消防法	第 4 類引火性液体、アルコール類
航空法	引火性液体
船舶安全法	引火性液体類
港則法	危険物・引火性液体類
毒物劇物取締法	劇物
海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律	有害液体物質（Y 類物質）
大気汚染防止法	特定物質 有害大気汚染物質 揮発性有機化合物
労働基準法	疾病化学物質

16. その他の情報

引用文献等

International Chemical Safety Cards ICSC0704

化学物質総合情報提供システム（独立行政法人製品評価技術基盤機構）

NITE による GHS 分類結果

* ここに記載された情報は、現時点での知見に基づくものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。すべての化学品には未知の有害性がありうるため、取扱いには細心の注意が必要です。本品の適正に関する決定は使用者の責任において行って下さい。

* この情報は新しい知見に基づき改訂されることがあります。